

インクジェット機で市場拡大

システム構築を進める京都の捺染工場

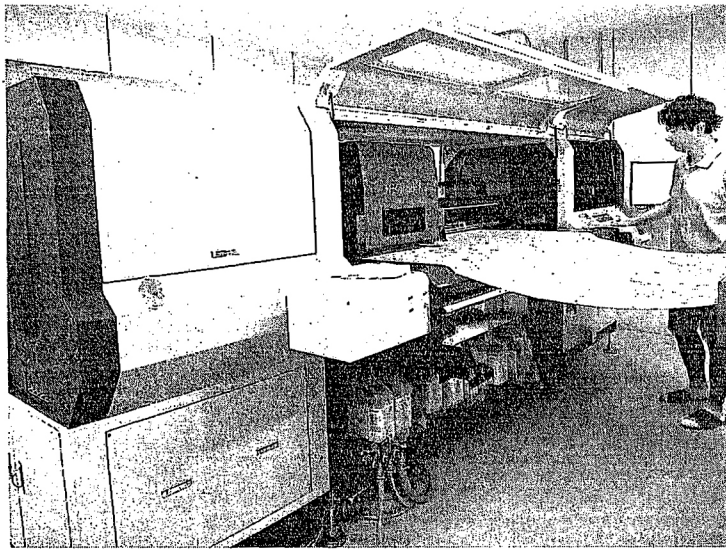
雑貨まで用途広げ

京都の捺染工場各社は、インクジェットプリンターを軸にしたデジタル捺染システムの構築が進み、生産するアパレルや雑貨が市場に浸透している。アパレルの小ロット・短納期化に応じた需要だけでなく量産対応でも広がりが見られ、企業によっては自社の雑貨ブランドに応用するなどアパレル以外の市場も開拓している。需要の拡大に応じたインクジェット機の新規導入や更新も活発だ。従来の設備を生かし、インクジェット機と組み合わせるなどで各社の特性を発揮した販売拡大にも力が入る。

量産にも対応

アパレルの海外生産シフトに伴い、生産量も企業数も減少を余儀なくされてきた京都の捺染業界だが、小ロットにも対応できるデジタル捺染に着目し、複

数台の導入で素材別に染料を使い分けるなどのシステムを確立してきた。大本染工は「10畳でも染める小ロット対応やパーツ染めもできる仕組みで婦人アパレルやスポーツなどに販路が広がった」。浜田染工は「服地中



小ロット対応の拡大で増設した中速機種が5月から稼働（浜田染工）

（阿部拓）

心に小ロット需要が増えている。など、小ロットの加工を中心に受注が広がってきた。一方で、「凹凸素材へのプリントや両面プリントなどがインナーやレディス市場で評価され、中規模ロットも拡大した」（リーフ）というように量産の需要も増えており、インクジェットは着実に市場に定着しつつある。「ライセンズブランドに販路を拡大し、この3年間の受注量を伸ばし続けている」（日興染織）、「独自技術の高浸透プリントが支持され、生産に占

めるデジタル比率は昨年までに4割に伸びた」（美研繊維）など、販路や売り上げの拡大に貢献している。

需要はアパレル以外にも広がる。「バック分野まで販路が拡大」（大本染工）、「寝具インテリアの引き合いがある」（浜田染工）など、扱う製品に広がりが見られる。京美染色では「自社の手捺染とインクジェット捺染を使い分けた雑貨事業が成長」したり、「デジタル捺染を生かしたオリジナルファブリック雑貨提案に引き合いがある」（美研繊維）など、自社ブランドの開発にも発展している。

設備の拡充相次ぐ

定着の背景には小ロット対応や染料の使い分けだけでなく、「前後の処理工程など周辺設備の充実」（リーフ）や「糊剤と助剤の独自配合」（美研繊維）による品質の向上もある。また「デジタルと既存のオートスク

リーンをすみ分けたオールラウンドな体制」（大本染工）を作り上げているのも、インクジェットの活用の幅を広げることにつながっている。

需要の変化を背景に、各社は引き続き設備を増強する。リーフは昨年秋と今年7月、従来設備より高速のインクジェット捺染機を相次いで追加導入し、8合体制にして生産能力を高めた。美研繊維は、昨年8月に当時最新の高速機を増設して3合とし、またまったロットにも対応できる体制を整えた。日興染織は、今年5月に既存機種より2倍以上のスピードがある3号機を設置し、今月から本格稼働している。浜田染工も小ロット対応の拡大のため、中速機種を増設して今年5月から3合体制で稼働している。

京美染色は、今年の秋にインクジェットプリンター1台を更新する予定。昇華転写用2台を含む5合体制の大本染工も来年には反応染料のプリンターを入れ替える考え。各社で設備更新の動きが相次ぐ。



Kyo Print®